

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム 松前さくら苑 1		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢 652-13		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。道内唯一の城下町であり、春には250種1万本の桜の木が早咲き、中咲き、遅咲きと楽しませてくれます。隣接に松前温泉があることから桜の季節には、町内外からの入浴客でにぎわいます。松前公園へお花見、藩屋敷の見学、散歩等をし自然の中でゆったりと過ごしています。又、裏山の山菜や、漁港が近いので新鮮な魚介も食する事が出来ます。職員と入居者様と「自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす」を実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム松前さくら苑」は、自然豊かな松前町に建つ平屋建て2ユニットのグループホームである。隣の松前温泉保養センターへ日々の散歩に車椅子や徒歩で出かけ、売店や自動販売機を利用している。散歩中に近隣住民と話をしたり、ボランティアや子供たちの訪問で交流を持つことも楽しみである。事業所内は明るく天井が高いため開放感があり、空調や温湿度も調節している。いつまでも健康で過ごせるよう多種の体操やレクリエーションを取り入れている。職員は利用者の思いや意思を尊重し、可能な限り自立して生活ができるよう、また皆が家族として普通に暮らし地域との行事で交流ができるように支援をしている。町立病院の定期往診や歯科の往診もあり、医療体制も整っている。医療情報は細やかに家族へ連絡し、状況の説明をしているため家族から信頼されている。入浴は利用者ごと週2回入っており、浴室や脱衣場も広く暖かい。シャワーチェアや、機械浴のできる浴室もあり、浴用ステップを浴槽に入れ、体の沈み込みを防止するなどの配慮がみられる。共有空間にある和室では節句のひな壇を飾って、畳に座りお茶を飲むことで、昔なじんだ生活を思い出している。居室になじみのある物品や好みの調度品を持ち込み、心落ち着く安心できる部屋になっている。理念にある「ゆったりと楽しく暮らす」が実現されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務室、ホールに掲示している。理念の他に職員の心得5項目を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し確認してケアの実践に活かしている。	理念は重要事項説明書やホームページで確認できるほか、事務所に掲示している。理念に加え毎月のユニット目標も掲示してある。職員は、自然の中で利用者それぞれが自分のペースでゆっくり過ごせるよう理念を念頭において個々の支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加、ホームの納涼祭には地域の方々にも参加して頂いている。婦人会や友人の来訪もあり、体操や踊り、歌など、楽しく交流している。花の苗、畑の野菜、魚、ウエスになる古着などを頂いたりし、日常的に交流している。	大沢地区祭りに行き出店で好きなものを買ったり、八幡神社祭りの獅子と門払いで交流をしている。小学生が施設見学会で折り紙やマジック、劇などを披露している。事業所開催の祭りに近隣住民が子供同伴で参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の研修の受け入れ、小学生の訪問活動、慰問ボランティアを受け入れ、認知症の方々と接し認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催をし、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は松前町の健康推進課、松前温泉経営者、町会長、婦人部、民生委員、事業所職員の参加を得て年6回テーマを決めて開催している。家族には会議案内と議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の健康祭りで事業所の計画作成担当者が介護相談を受け持っている。管理者が町立病院でのケア会議に出席している。町の健康推進課と連絡を取り合っている。保護課が生活状況の確認に来て	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。職員間でマニュアルを活用し内部研修や勉強会があれば参加をし、周知徹底を図り共通認識を持ちケアを行っている。居室には鍵は設置していない。防犯の為、夜8時から翌朝6時まで	8月の外部研修に参加し、内容を職員に周知しているほか、11月に身体拘束について内部研修を行っている。定期の委員会も開催し、職員は身体拘束による弊害を熟知し、不適切なケアはしていない。玄関は夜間、職員が一人になる時間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を身体拘束、虐待予防研修会に参加させている。事業所内、虐待がおきないように注意し職員側のストレスを軽減できるよう話合いの場を設けるようにしている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会や、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見、要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気作りをし日頃から会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。年4回、通信だよりを家族に郵送している。	ホーム便りを季刊号で発行し、郵送している。電話や家族が訪問した時に利用者の暮らしぶりや健康状態を説明しており、意見や要望は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。日々の会話で利用者の思いを聞き出し希望を取り入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、職員から出された意見やアイディアは職員会議で検討している。買い物希望や意見、要望を聞く機会を設け運営に反映している。	職員は行事担当を月ごとに担い、物品発注や買い物を行いながら意見を出し合い、運営に反映させている。職員の意見を出しやすい職場環境で希望休も取りやすく、町主催の研修にも交代で参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。また町内の研修参加も行っている。ケア会議の時間では内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は作っていないが、町内行事時の参加活動で交流、研修会の協力をしサービスの質を向上させていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望を汲み取り安心して生活出来るような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としている事を見極め、利用者の支援のあり方を考えながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が、楽しく生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えて行けるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で馴染みの美容院を利用したり、入所者の親族がホーム面会時散髪してくれる事もある。又、法事、お盆、お正月など家族対応で外出や外泊をしている。親族や兄弟の来訪もあり、今までの関係が途切れないように支援している。	利用者の元近所に住んでいる知人や、以前の同僚が訪問している。年賀状の投函や電話を掛ける支援をしている。利用者に編み物の材料を購入するよう頼まれることもあり、楽しみな趣味を継続している。家族が迎えに来て外食や買い物をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しない様に、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望で、ぬりえや毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し困難な場合は、家族から情報を得ながら支援に努めている。	思いを伝えられる利用者も多く、日ごろの会話で希望を聞き取り、観葉植物の水やりなどを一緒にできるよう支援している。意向を聞いた場合は、生活の記録シートに記入し活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報から、生活歴を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録等にて、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高め現状にあった介護計画になるように取り組んでいる。	介護計画を意識して日々の生活くらしシートを記入している。モニタリング表、課題分析、ケアチェック表は定期的に更新している。介護計画には利用者や家族の希望も記入してある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別の生活シートに記載し、職員間で共有しており、介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物支援・受診介助、外出の送迎等、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を初め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入所者は月2回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調変化があり受診が必要な時には職員対応で受診介助をし、結果は家族に報告している。	町立病院の循環器内科の医師が2週間ごとに訪問し、専門科以外であれば同じ院内の他科に連絡して受診をしている。歯科も必要に応じて往診があり、受診記録も個別に記入している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある介護職員はいないが、職員同士、日々の様子を観察して情報を共有し、医療面などの相談、助言をもらい適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは訪問診療や体調変化時は病院側へ連絡をし連携を計っている。また、入院時は情報提供書を施設から提供をし情報提供している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為は必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携をとりながら取り組んでいる。	利用開始時に看取り介護についての同意書を交わして事業所の方針を説明している。経口摂取が難しくなったり常時医療行為が必要になった場合は、医師を交えて家族と相談をしながら支援方法を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルは備えて対応できるようにしている。救命救急、ADEの講習を受けている、職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足ししている。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており又、町内会、町内の消防団員が火災情報連絡体制に入っており協力体制は出来ている。	6月と11月に消防に依頼して火災訓練をしている。緊急時には住民や消防団員が事業所に駆けつけてくれるように応援要請を取り交している。災害備蓄品も用意され、救命救急講習も職員は受講済みである。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンが備え付け、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。脱衣場に音楽を流し、リラックスできるようにしている。	個人記録などの書類は、外部の方に見えないよう事務所で適切に保管している。利用者への呼びかけは、基本的に「さん」付けとしているが、旧姓を希望される方にも応じるなど臨機応変に対応し、プライバシーを損ねない言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分りやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じとり、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、また、本人にあった身だしなみやおしゃれ(毛染め・洋服など)が出来るように支援している。理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司や赤飯など本人の希望をとっている。また行事食を入れ、季節などを味わってもらい楽しんでいただいている。利用者は茶碗拭きや食材の準備などを行っている。	道の駅などで外食を楽しんだり、利用者の誕生日には本人の嗜好に応じて、スパゲティやオムライスなどを食し、一人ひとりが食事を楽しめるよう努めている。畑ではトマトや長ネギなどの野菜を栽培し、利用者と一緒に収穫を行うなど変化のある食事になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人の生活シートに記録し、職員で状況を共有している。野菜不足になりがちなので、週2回、青汁を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、指示見守りや介助により口腔ケアを行っている。又、状況を把握し、歯科訪問診療時に診て貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者一人ひとりに合わせた支援をしている。	排泄シートに記録し、排泄パターンを把握している。利用者の表情や仕草などから自然な形でトイレ誘導し、自立支援や声かけを行っている。家族の意向により夜間はポータブルトイレの使用もあり、利用者に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、飲むヨーグルトなど便秘に良い物や、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を目安に入浴を行っている。個浴が基本だが、仲の良い利用者は二人で入浴する事もある。入浴出来ない時は翌日入浴できるようにしている。	週2回午前中の時間帯に入浴し、本人に合わせて機械浴も利用している。脱衣場に演歌、民謡などの音楽を流し、お湯の温度も好みに合わせ、利用者がリラックスして入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の性格習慣や体調に応じて休憩して頂いている。また、訴えがない場合は、本人の様子を観察して、休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、服薬情報で確認出来るようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報を共有している。服薬記録簿により、服薬させた職員の名前を記録しきちんと服薬出来ているか、確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗い、洗濯たたみ、畑作業、草取り、編み物など役割として出来る事、得意として出来る事など、一人ひとりが生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換ができる様な支援を行っている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事で外出をしているが、利用者の希望で隣の温泉まで散歩しながら売店に買い物に行ったりデッキに座ってくつろいだり、苑の周りに花を植えたり、自室に飾りたい花を取ったりし外気に触れるように支援している。	近隣の温泉施設まで散歩し、売店で買い物やベンチに座ってくつろぐなど、一人ひとりの希望に応じて支援している。天気の良い日は、松前公園までドライブをし、桜や紅葉を見るなど四季を感じられる体験も取り入れ、外出を楽しめるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理して頂き、本人や家族の希望により、預り金から自由に使うことが出来るようにしている。管理不可能な方は、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかって来た場合は、本人とお話をして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は常に窓からの日が差し込んでいます。居間は吹き抜けになっており日差しがはいり明るい空間になっている。居間にあるソファに腰かけ思い思いに過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持っていただけるように施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしている。	居間は吹き抜けで、天窓からも日差しが入る明るい空間になっており、ソファの配置も一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう工夫されている。壁には小学生の作品や飾りつけがあり、畳敷の小上りには大きな雑壇が置かれ、家庭的な雰囲気でも気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファが置かれ、一緒に見て楽しめるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットが備え付けられており明るくゆったりしている。位牌や思い出の品や家族の写真などがあり、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、ベッド、クローゼットが備え付けられ、他に馴染みのタンスなどを持ち込み、居心地よい空間になるよう工夫している。壁には家族の写真が飾られ、お花や位牌が置かれるなど、その人らしく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、ホールの周りには、手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。又、スプリンクラーを設置しており、安心して生活が出来るようになっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム 松前さくら苑 2		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢 652-13		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。道内唯一の城下町であり、春には250種1万本の桜の木が早咲き、中咲き、遅咲きと楽しませてくれます。隣接に松前温泉があることから桜の季節には、町内外からの入浴客でにぎわいます。松前公園へお花見、藩屋敷の見学、散歩等をし自然の中でゆったりと過ごしています。又、裏山の山菜や、漁港が近いので新鮮な魚介も食する事が出来ます。職員と入居者様と「自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす」を実行しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関。事務室、ホールに掲示している。理念の他に職員の心得5項目を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し確認してケアの実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加、ホームの納涼祭には地域の方々にも参加して頂いている。婦人会や友人の来訪もあり、体操や踊り、歌など、楽しく交流している。花の苗、畑の野菜、魚、ウエスになる古着などを頂いたりし、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の研修の受け入れ、小学生の訪問活動、慰問ボランティアを受け入れ、認知症の方々と接し認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催をし、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。職員間でマニュアルを活用し内部研修や勉強会があれば参加をし、周知徹底を図り共通認識を持ちケアを行っている。居室には鍵は設置していない。防犯の為、夜8時から翌朝6時までには玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を身体拘束、虐待予防研修会に参加させている。事業所内、虐待がおきないように注意し職員側のストレスを軽減できるよう話合いの場を設けるようにしている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会や、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見、要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気作りをし日頃から会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。年4回、通信だよりを家族に郵送している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、職員から出された意見やアイディアは職員会議で検討している。買い物希望や意見、要望を聞く機会を設け運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。また町内の研修参加も行っている。ケア会議の時間では内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は作っていないが、町内行事時の参加活動で交流、研修会の協力をしサービスの質を向上させていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望を汲み取り安心して生活出来るような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としている事を見極め、利用者の支援のあり方を考えながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が、楽しく生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えて行けるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で馴染みの美容院を利用したり、入所者の親族がホーム面会時散髪してくれる事もある。又、法事、お盆、お正月など家族対応で外出や外泊をしている。親族や兄弟の来訪もあり、今までの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しない様に、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望で、ぬりえや毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し困難な場合は、家族から情報を得ながら支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報から、生活歴を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録等にて、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高め現状にあった介護計画になるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別の生活シートに記載し、職員間で共有しており、介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物支援・受診介助、外出の送迎等、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を初め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入所者は月2回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調変化があり受診が必要な時には職員対応で受診介助をし、結果は家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある介護職員はいないが、職員同士、日々の様子を観察して情報を共有し、医療面などの相談、助言をもらい適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは訪問診療や体調変化時は病院側へ連絡をし連携を計っている。また、入院時は情報提供書を施設から提供をし情報提供している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為は必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携をとりながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルは備えて対応できるようにしている。救命救急、ADEの講習を受けている、職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足ししている。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており又、町内会、町内の消防団員が火災情報連絡体制に入っており協力体制は出来ている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンが備え付け、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。脱衣場に音楽を流し、リラクセスできるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分りやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じとり、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、また、本人にあった身だしなみやおしゃれ(毛染め・洋服など)が出来るように支援している。理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司や赤飯など本人の希望をとっている。また行事食を入れ、季節などを味わってもらい楽しんでいただいている。利用者は茶碗拭きや食材の準備などを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人の生活シートに記録し、職員で状況を共有している。野菜不足になりがちなので、週2回、青汁を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、指示見守りや介助により口腔ケアを行っている。又、状況を把握し、歯科訪問診療時に診て貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者一人ひとりに合わせた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、飲むヨーグルトなど便秘に良い物や、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安に入浴を行っている。個浴が基本だが、仲の良い利用者は二人で入浴する事もある。入浴出来ない時は翌日入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の性格習慣や体調に応じて休憩して頂いている。また、訴えがない場合は、本人の様子を観察して、休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、服薬情報で確認出来るようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報を共有している。服薬記録簿により、服薬させた職員の名前を記録しきちんと服薬出来ているか、確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗い、洗濯たたみ、畑作業、草取り、編み物など役割として出来る事、得意として出来る事など、一人ひとりが生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換ができる様な支援を行っている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事で外出をしているが、利用者の希望で隣の温泉まで散歩しながら売店に買い物に行ったりデッキに座ってくつろいだり、苑の周りに花を植えたり、自室に飾りたい花を取ったりし外気に触れるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理して頂き、本人や家族の希望により、預り金から自由に使うことが出来るようにしている。管理不可能な方は、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかって来た場合は、本人とお話をして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は常に窓からの日が差し込んでいます。居間はベランダの窓とデッキがあり日差しがはいり明るい空間になっている。居間にあるソファや椅子に座って過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持っていただけるように施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファが置かれ、一緒に見て楽しめるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットが備え付けられており明るくゆったりしている。位牌や思い出の品や家族の写真などがあり、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、ホールの周りには、手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。又、スプリンクラーを設置しており、安心して生活が出来るようになっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 松前さくら苑

作成日：令和 2年 3月 10日

市町村受理日：令和 2年 3月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1					
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。